

JICA 海外技術研修員事業への参画報告

福井 智史*

The acceptance report to JICA overseas technical training program

Satoshi FUKUI

Abstract

The national colleges of technology are requested by government that each national college of technology accept an increase in the number of international students. The national college of technology is trying to construct newly system of acceptance for international students who studying abroad at own expense. In the situation of this background, this is an acceptance report to the JICA overseas technical training program, which had been carried out department of Mechanical Engineering of Kagawa National College of technology in 2013 year. We accepted an international student from Brazil, who wants to study Industrial engineering. Our technical training program of one month has finished, and we got good outcome of education.

Keywords : Overseas technical training, International students, Mechanical engineering, Industrial engineering

1. はじめに

政府主導の元、大学および高等専門学校は外国人留学生の受け入れ数増加を求められている。これに応えるために高等専門学校では従来からの外国人留学生受け入れとは異なる形態での留学生受け入れが求められている。本報告はこのような情勢を背景として、平成 25 年度に香川高等専門学校機械工学科が実施した、JICA 海外技術研修員受入事業への参画報告である。

2. 経緯

平成 25 年度に独立行政法人国際協力機構 JICA が受け入れる海外技術研修員のうち、香川県へ来県す

る 1 名が『生産工学』を研修内容として希望していた。その研修内容が香川高等専門学校機械工学科の教育内容と合致する部分が多いこと、そして日頃から国際協力活動に香川高等専門学校が積極的に活動していることから、公益財団法人香川県国際交流協会から香川高等専門学校機械工学科へ、研修先機関として技術研修員受入れを求める打診があった。

3. 学科としての活動目標

通常の学校運営業務に加えて、海外技術研修員を受入れることは、担当する教職員に相応の負担を求めることになる。受入れを打診された機械工学科は、受入に先だって下記の研修員のプロフィールを元に慎重に受入可否についての議論を行った。

- ・人数：1 名
- ・性別：男性

* 香川高等専門学校 機械工学科

- ・生年月日：1992年7月30日（受入時21歳）
- ・国籍：ブラジル（両親ともに日系）
- ・学歴：UNIP パリウスタ大学 生産工学科2年生
- ・語学力：ポルトガル語、スペイン語、英語、日本語による会話が可能

議論の結果、受入れを有意義なものとするために下記の活動目標を設定し、これら目標を達成することを期待して受入れを決定した。

- ①国際社会への貢献
- ②学生への国際理解教育
- ③地域と連携した国際協力活動
- ④教職員の国際化意識の向上

4. 受入にあたっての懸案事項

(1) 研修受入方法

- ・総務課、学務課、国際交流室、機械工学科、技術教育支援室が協力し、可能な範囲の対応を行った。
- ・本校へ研修を依頼した直接の窓口は香川県国際交流協会であることから、学内における本件の事務的な取り扱いは国際交流活動では無く、地域との官学連携活動とした。
- ・受入れ期間が平成25年10月1日から11月10日の約1か月間と短いために特定の科目での単位認定は困難であると判断し、研修員の身分は入学生、科目等履修生、研究生ではなく、聴講生として授業を見学する形で授業に参加させた。
- ・研修員が授業を聴講するクラスは、研修員の年齢と学歴から機械工学科4年を主とし、科目の内容を考慮して、他の学年の研修に適した科目については臨時に聴講することとした。
- ・研修員の対応を担当するチューター学生を機械工学科4年から決定し、授業時や教室移動時の対応を学生に任せた。
- ・研修員の具体的な研修プログラム策定ならびに研修員に関する対応の窓口は機械工学科教員1名で実施した。

(2) 宿泊場所

- ・研修員は、香川県滞在中は高松市内の単身者用アパートに宿泊した。これに関する手続きの全ては香川県が実施した。
- ・宿泊場所から香川高等専門学校までの数キロの通学は自転車を使用した。学校内における自転

車通学許可証等は特例として発給し、自転車は香川県からの貸与であった。

(3) 研修員への支給費用

- ・往復航空券、生活費、宿泊費、支度料、その他研修にかかる費用（通学費、研修旅費、消耗品費等）が JICA から香川県を通して研修員へ支給された。

(4) 研修機関への支給費用

- ・月額3万円が香川県を通じて香川高等専門学校へ研修受託費用として支払われた。この費用の使途は総務課と相談の上で全額を機械工学科経費として研修員の活動実費に充当した。これとは別に研修員が参加した研修旅行に対する旅費の実費支給が香川県からあった。

(5) 健康管理

- ・研修員は海外旅行傷害保険に加入しており、通常のみ病気がけがには、この保険で対応できる。病院へ行く場合は、香川県国際交流協会が所定の手続きを行うことになっていた。

5. 研修の内容

具体的な研修内容は以下の通りである。日常の研修として平日は授業に出席させたが、研修期間内に機械工学科の学生と教員が参加する各種イベントへ積極的に参加させた。

- (1) 9/20：10/1からの研修開始に先立って県の担当者を交えて技術研修員との面会・打合せを実施。その後、詫間キャンパスで開催した香川高等専門学校第2回留学生交流会に参加した。



図1 香川高等専門学校第2回留学生交流会

- (2) 10/1～11/10：機械工学科4学年のおよび他の学年で実施している講義科目、実習科目、実験科目の

授業聴講を中心に研修を実施した。

- (3) 10/4～10/7: ツインリンク茂木サーキット(栃木県)で開催のホンダエコマイレージチャレンジ 2013 全国大会へ遠征する機械工学科チームに同行した。



図2 ホンダエコマイレージチャレンジ2013に参加した香川高等専門学校機械工学科チームと次世代自動車研究部チーム

- (4) 10/11: 株式会社マキタ(高松市)への企業見学会に参加した。



図3 株式会社マキタへの企業見学の様子

- (5) 10/18: 香川高等専門学校のスポーツ大会に参加した。



図4 高学年スポーツ大会の様子

- (6) 11/3: 阿南高専で開催の全国高専ロボットコンテスト 2013 四国地区大会に香川高等専門学校チーム

の応援団として参加した。



図5 全国高専ロボットコンテスト2013四国地区大会の様子

- (7) 11/9～11/10: 香川高等専門学校の学生祭に参加した。

- (8) 12/16: 香川県主催の海外技術研修員修了式に研修員と香川高専担当教員が参加した。



図6 平成25年度香川県海外技術研修員修了式の様子



図7 平成25年度香川県海外技術研修員修了式の様子



図8 香川県から香川高等専門学校へ贈られた感謝状

6. 活動目標に対する考察

機械工学科が設定した活動目標に対する実施後の評価・考察は下記の通りとなった、

①国際社会への貢献

この事業は政府 ODA 予算により独立行政法人国際協力機構 JICA が実施する海外技術研修員受入事業の研修受託を受けたものであり、国際社会への社会的な貢献を果たした。

②学生への国際理解教育

研修生を主に受入れた機械工学科4年生のクラスには留学生がいなかったため、クラスが初めて受入れる留学生となった。日系ブラジル人である研修生の文化的歴史的背景から、ポルトガル語、スペイン語、英語、日本語を使い分ける研修生と日々接することにより、学生の国際的視野が広まった。

③地域と連携した国際協力活動

この活動を通して香川県国際交流協会と緊密な連絡をとり、香川県の国際交流活動の一端を担った。また、香川県主催の海外技術研修員修了式において、香川高等専門学校は香川県から感謝状を受けた。この受入れ後に香川県の国際交流協会主催の活動に参加する学生が増加した。

④教職員の国際化意識の向上

研修員の受入れは通常の授業を利用し、各授業を担当する機械工学科教員、実習と実験を担当する技術職員の協力により実施した。この受入れを通して、研修員の語学能力や予備知識に関して教職員間での打ち合わせを繰り返して行っており、これを通して教

職員の国際化意識は向上したと思われる。

7. まとめ

受入れ前に設定した目標は、ほぼ達成することができ、成果として残すことができた。

海外技術研修員の受入れは、海外技術研修員の受入れ分野が年度により異なることから、今後定常的なものにはならない。しかし今回の受入れ実績は、同様な案件が今後持ち込まれた場合の対応方法や受入れ窓口と体制を判断する前例として、教員、職員にとって学ぶことは大きかったと思われる。

今後の留学生受入れ増加に対しては、私費留学生を受入れる場合に問題になるであろう、受入れ期間中の身元保証の問題、住居の問題、様々な費用の問題について、今回の案件は全て香川県国際交流協会の職員が対応したことから、高等専門学校における教育内容と異なるこれらの部分での対応が非常に大きな負担になるであろうことが判明した。

謝辞

本研修プログラムは香川高等専門学校機械工学科で実施しましたが、本プログラムを無事に遂行することができたのは、JICA 四国の担当者、香川県の担当者だけでなく、嘉門校長をはじめ機械工学科教員以外の香川高等専門学校教職員の方々のおアドバイスとご助力に寄るところも非常に大きいです。また、研修生を快く受入れてくれた機械工学科4年生の学生諸君にも多く助けられました。お礼をもって謝辞とさせていただきます。